お元気ですか！
志村 たかよしです

第６０９号 2012年9月23日

日本共産党中央区議団
中央区 築地 １－１－１
電 話 ３５４６-５５６３
ＦＡＸ ３５４６-９５７０

豊洲新市場予定地　新たに基準値１０００倍のベンゼン
崩れた！「汚染処理対策」の前提

青果仲卸の建設が予定されている第５街区での土壌汚染対策工事の様子です。＝ 9/17 撮影

東京都は13日、築地市場の移転予定地（豊洲）の土壌から環境基準の１０００倍のベンゼンを検出したと発表しました。

ベンゼンが見つかった箇所は、都がこれまで「水を通さないので汚染がそれ以上深く広がらない」としてきた地層の内部で、専門家からは「都の汚染処理策の前提が崩れた」との批判があがっています。

発表によると、予定地の「不透水層」で行った２９２地点のうち68カ所で環境基準を超えるベンゼンを検出しました。

（裏面へ）

対策工事は、汚染された土を舞いあげています。

このうち5カ所で環境基準の100倍を超え、シアン化合物も16カ所で環境基準を超えていました。

最高1000倍の濃度のベンゼンが検出されたのは、青果卸売場を予定している5街区（前ページの写真）で、不透水層の上端から1・3メートル下の地点です。

全面的調査の要求を拒んできた都

都はこれまで汚染物質の分布調査を不透水層上端までにとどめ、市場関係者や日本環境学会、日本共産党などの全面的調査の要求を拒んできました。

不透水層内部から汚染物質が見つかった原因について、都中央卸売市場は「ガス工場操業時の汚染物質が入り込んだ可能性があるが、現在分析中。汚染物質は掘削し処理するので問題はない」としています。

しかし、日本環境学会の坂巻幸雄・土壌汚染問題グループ長は「都がこれまで『これより汚染は広がらない』といってきた不透水層で高濃度のベンゼンが見つかったことは、都の汚染処理策の前提が崩れたことを示すものです。都は説明会を開き、すべての情報を明らかにし、専門家と公開討論を行うべきだし、ずさんな調査にもとづく汚染処理策も再検討すべきです」と「しんぶん赤旗」紙面で語っています。

大震災で100カ所以上が液状化

昨年の東日本大震災の時、新市場予定地内では100カ所以上の地点で液状化現象が起きました。

首都直下地震などの大地震が起きれば、たとえ「土壌汚染対策」を行っても地下深くから有害物質が噴出する可能性は十分あります。

築地市場は、大震災でビクともしませんでした。災害時の食の供給を考えても、豊洲の新市場はふさわしくありません。

ブルーシートで覆われた液状化した場所＝11年

地中にある1万8千本の杭は？

この東京ガス跡地には、コンクリートや松の木で作られた約1万8千本の杭が埋設されています。

市場建設工事の時に抜いたりすれば、地中から有害物質が吹き出しかねません。

杭の配置図を提出するように都に要求しても、都は提出を拒んでいますが、9月17日に現場を見た時、コンクリートの杭が露出している場所がありました（右下写真）。

18000本の杭の一部が密集＝9/17

揺らぐ豊洲の土壌汚染対策

農水省が豊洲新市場の認可の前提として「幅広い関係者、消費者の理解」とともに「科学的見地に基づく土壌の安全性」をあげています。

また、中央区が移転を認めた前提に「土壌の安全性」があります。

今回の結果は、土壌汚染対策が不十分なことを浮き彫りにしました。

築地市場の現在地再整備でしか道がないことは明らかです。

（掲載写真は志村撮影）

ご意見、ご要望など、お気軽にご連絡ください（3536−6309）

ブログもごらんください　志村たかよしワールド　検索